

授業改善のイメージ(音楽科)

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善

～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

曲にふさわしい歌唱表現の工夫

設定理由

歌唱活動は、単に声を出す技能だけでなく、多くの要素が絡み合って表現に辿り着く。楽曲を分析(アナリーゼ)し、分析したことを音楽で表現する。どのように音楽表現すべきか考え、その音楽表現が合っているのか、ふさわしいのかを判断する力(知覚・感受)を育てる必要がある。また、器楽曲と違い、歌唱曲には歌詞があり、曲想と歌詞の関わりも考えることで表現を深めることができる。オーケストラなどの鑑賞での楽曲分析だけでなく、歌唱曲においても曲想と歌詞の関わりなどから分析する力をつけることが必要である。そして、分析するだけでなく、自分が知覚・感受したことと、作曲家や作詞者の思いや意図との関わりを考えていく中で歌唱表現を深めていく力をつけるため、上記の内容を設定した。

授業改善の方針

曲にふさわしい歌唱表現をするために必要な要素を意識できるような授業を行う。

(1) 知識の定着と技能の習得

音符や楽語、発声や発音などは表現を深めていくための基礎となるので、定着につながる工夫をする。

(2) 音を形づくっている要素の知覚・感受につなげる学習形態

個、ペア、グループ、全体と形態を工夫し、表現の幅を広げる。

(3) 思考の流れが見やすいワークシートの工夫

曲のよさや特徴を感じ取り、自分の考えを持ち、パート内での共有を基本としていく。

これらを積み重ねていくことで、思いや意図を持って表現することの楽しさを味わってほしい。

年間計画

前期

後期

知識 音符や楽語 技能 呼吸法や発声

〈二年生〉

歌詞と音楽記号の関わりを考える

詩の内容に合った表現の工夫

〈三年生〉

歌詞と音楽記号、旋律との
関わりを考える

曲にふさわしい
表現の工夫

〈三年生〉

前期の成果

- (1) 発声については、全学年の生徒がどのような声が良いのか、目指す声の聴き取りはできている。パート練習を巡回する中で現状の課題を伝え、どのようにすれば目指す声に近づくのか、いろいろな方法をアドバイスした。その中で、自分に合った方法を見つけて技能を高めていた。発音については、語頭をはっきり言うことや鼻濁音など基本を押さえ(2・3年生は再確認)、1年生も意識して歌えるようになった。
- (2) 個で気づくことができなかった生徒も、ペアやグループ学習の中で、音を形づくっている要素の知覚はできている。

前期の課題

- (1) 音符や楽語の定着については、1年生にもう少し時間が必要と感じる。パート練習の中でも使うことができるよう促していく。発声については、1年生は呼吸法の理解と習得が難しく、体全体を使って歌うことができていないので、パート内やペアで確認しながら習得させたい。2・3年生は息を吐くことはできるが吸うことが難しい生徒が多くおり、毎時間の積み重ねが必要である。フレーズ終わりまでノンブレスで息を保つことや、リップロールなども併用していきたい。
- (2) 音を形づくっている要素の知覚だけでなく、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えられるよう、何となくこのように感じたではなく、音形や音域などにも注目し、根拠を持って説明できるようにさせたい。また、他者の考えを受けとめ、様々な感じ方、表現方法を知ることは重要なことなので、グループ活動を継続させたい。
- (3) 曲想や歌詞の変化が分かりやすい部分をピックアップし、曲の分析や表現を深めていこうとしたが、書くことに時間がかかりすぎた。項目が多かったことと、情報をつなぎ合わせながら考えることに慣れていなかったからではないかと考える。スムーズに思考できるような、工夫改善が必要である。

後期の成果

- (1) 音符や楽語は授業やテストからも改善は見られたが、今後も継続してさらなる定着に繋げたい。発声については、パート練習の中でリーダーを中心に息の吸い方や身体の使い方のアドバイスができ、上級生は長いフレーズを歌うことができる生徒が増えた。
- (2) 歌曲については、単旋律なのでパートではなくグループ活動を通して音を形づくっている要素に気づき、根拠をもって説明し、表現に繋げる姿が見られるようになった。(1年生)

後期の課題

- (1) 発声については、良い姿勢を保って歌うことに加え、息の流れや響きを安定させる必要がある。発音については、語頭だけでなく言葉のつながりや口輪筋を意識し、正確に歌詞が伝わるようにしたい。
- (2) このように歌いたいという思いをもつことはできたが、一人ひとりが楽譜を読み取り、歌唱表現を深めるところまではいかなかった。今後もペアやグループ活動などを通して、考え方や表現方法の幅が広がるようにしたい。
- (3) 後期のワークシートは、前期の反省を踏まえて、よりシンプルなものにしたが、生徒の思いや考えを十分に引き出せていないと感じる。丁寧な教材研究に加え、生徒の定着状況を見極めていくことが必要である。

来年度に向けて

今年度は、ワークシートの工夫改善を主に取り組んできた。創意工夫する活動の様子の観察だけでなく、どのような創意工夫をしたいのかが伝わるワークシートが必要である。後期の課題を達成できるよう、来年度もワークシートや発問を吟味し、生徒の力に繋げる授業をつくりたい。そして、限られた授業時間の中ではあるが、効果的かつ深い学びに繋がれるよう、新たな視点を持って改善していきたい。

作成者：田村 有実子(たむら ゆみこ)

音楽科学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

2年D組 40名

指導者 田村 有実子

- 1 題材名 作曲家の心を動かそう～曲想や歌詞、声部の役割との関わりを考えた表現の工夫～
 教材名 『花がほほえむ』 宮下奈都作詞・三宅悠太作曲

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・作曲者が、作詞者の小説に感銘を受け、「今を生きる中学生へ届けたい言葉を」と依頼して生まれた混声3部の合唱曲である。曲は大きく3つのまとまりとなっており、基本は4分の4拍子だが、最後は4分の3拍子や4分の2拍子が盛り込まれ、印象付ける構成である。旋律は繊細かつ力強い言葉の語感を生かしてつくられており、その音程やリズムの変化に注目して表現を深めることができる。
- ・強弱記号、表情記号が細かく記されているので、歌詞との関連も考えた表現に繋げやすい。また、音域やリズム、主旋律を理解し、パートのバランスも考えながら演奏する必要がある。最初と最後はユニゾンなので、一体感を持って演奏しやすい曲である。ユニゾンの部分は、倍音が出ることも期待できる。
- ・主旋律がユニゾン、2パート、1パートと形を変えて演奏されるので、全員が主役になることができる。伴奏は合唱を支え、時には気持ちの高まりを誘導し、4つ目のパートとして重要な役割をもっている。伴奏の音型の変化も感じながら歌うことを味わうことができる。

(2) 学習者について

- ・合唱曲については、落ち着いた雰囲気曲を好む生徒が多く、音楽だけでなく歌詞にも注目して学習することができている。昨年度は年間通して歌唱活動ができており、呼吸法をはじめとした歌唱の基礎力がついてきた。また、意欲をもって授業に参加することで、知識を生かした技能の習得にも繋がり、強弱表現や響きのある歌声で歌えるようになりつつある。
- ・7月に実施した教科アンケートにおいて、歌曲の学習を通して、曲想を意識して歌う力、歌詞から風景を想像する力、情景を思い浮かべて歌う力、旋律だけでなく歌詞からも歌い方を工夫する力がついてきたと感じている。そして、歌唱テストでは、情景を思い浮かべながら表情豊かに歌い上げる生徒が多く見られた。今年は歌詞や思いを伝え、聴いている人の心を動かす演奏がしたいと考えている。
- ・本学級は歌唱を得意としている生徒、合唱の楽しさを味わうことができている生徒が多く、学年では46.2%の生徒が歌唱活動を一番楽しいと感じている。パート練習では、分からないことを聞いたり、意見を出し合ったりすることができており、満足感も得られている。

(3) 指導について

- ・呼吸法や発声は継続的な指導が必要であり、表現を深めていく中でも随時、呼吸や発声には触れて指導していく。伴奏との融合、それに伴う呼吸のタイミングや速さも考えさせたい。また、曲想や詩の内容に合った声質・ニュアンスを考えさせたい。
- ・旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、歌詞との関連も考えて表現を深めさせたい。そして、作曲者と作詞者の思いを歌詞や楽譜から読み取る力、なぜその強弱記号なのかなど疑問をもって考えることも定着させたい。詩の内容を生かした表現に繋げるため、ワークシートで思考を深めていく。
- ・多くの生徒は、一体感のある合唱をつくりあげることが目標としており、そのためには互いに聴きあってパートのバランスを考えることや歌詞の意味を考えて表情豊かに歌うことが大切であることを理解している。個人、パート、全体で考えや表現方法を共有し、音楽の中でどのように言葉を生かし、合唱としてつくりあげていくのかを考えさせたい。

単元プランシート(音楽科2年)

実施時期 8～10月

題材名	作曲家の心を動かそう～曲想や歌詞、声部の役割との関わりを考えた表現の工夫～	
題材の目標	曲にふさわしい歌唱表現を楽譜や歌詞から作曲者と作詞者の意図を読み取り、いろいろな表現方法を考える活動を通して、創意工夫して歌うことができる。	
評価 規 準	知・技	① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ② 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ③ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。
	思・判・表	① 旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、その関わりについて考えている。 ② 知覚・感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
	主体	①曲想や歌詞の内容、声部の役割と全体の響きなどに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組もうとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	○曲との出会い 詩の内容、曲の特徴を感じ取る パートの音程と音の長さを正確に覚える①	① ワークシート		
2	○パートの音程と音の長さを正確に覚える②			① ワークシート
3	○楽譜や歌詞から作曲者と作詞者の思いを読み取る	① ワークシート	① ワークシート	
4 (本時)	○読み取ったことをどのように歌いたいと考え、パートで表現を深める	② 観察	② ワークシート	
5	○表現を深めるうえで必要な技能(強弱や発音、発声)を意識して歌う	② 観察		
6	○言葉の抑揚と旋律を活かした表現をする	② 観察 ワークシート	② ワークシート	
7	○パートのバランスを考え、美しいハーモニーをつくる	③ 観察		
8	○聴いている人の心に響く合唱をつくり上げる	③ 観察 ワークシート		① ワークシート

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
歌詞の内容や曲想を感じ取るとともに、表したい思いや意図をもち、旋律・テクスチャ・強弱の働かせ方を試行錯誤し、表現を工夫している。	歌詞の内容や曲想を味わうとともに、表したい思いや意図をもち、旋律・テクスチャ・強弱・音色(声色)の働かせ方を試行錯誤し、曲にふさわしい表現を工夫している。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(4/8)

(2) 題材名 言葉の意味や語感を生かした表現をしよう

(3) 本時のねらい

表現方法を、作曲者・作詞者の思いを読み取り、どのように歌いたいかについて考えるとともに、歌詞やリズム、音程の違いから表現を工夫する活動を通して、見出すことができる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
15	1 本時のめあてと学習内容を確認する。	○本時のめあてと本時の学習内容を確認する。 言葉の意味や語感を生かした表現をしよう ○パートで考えをまとめる。 ○パートで練習する内容を全体に伝える。	
20	2 パートで表現の工夫をする。	○パート練習をさせる。 ・2連と4連の歌詞の違いやリズム、音程の違いに気づき、言葉との関連を考え、表現できるようにする。 <予想される考え> 2連「やさしくなりたい 強く生きたい」 4連「ありったけの勇気を 勇気を出して」 *4連の方がより気持ちが強い言葉 音の跳躍、リズムにも変化が見られる。 (付点、16分音符、シンコペーション、休符) 4連はより力強く歌いたい。(特に「勇気」) 2連「あなたが～みていたから」 4連「それぞれの道～まじわったらいいな」 *4連の方がより気持ちが高まり、前向きな言葉 音の跳躍、リズム(16分音符と8分の違い、休符) 62・63小節目のリズムが各パート違うことが「それぞれの」を表現している。	
10	3 各パート発表、アドバイスをする。	○パート別の発表を聴き、アドバイスをする。 (数名発表)	
5	4 振り返りを行う。	○本時のめあてに対する振り返りをさせる。 表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したことを記入する。	[ワークシート] イー②

(5) 本時の評価基準

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
歌詞の内容や曲想を感じ取るとともに、表したい思いや意図をもち、旋律・テクスチャ・強弱の働かせ方を試行錯誤し、表現を工夫している。	歌詞の内容や曲想を味わうとともに、表したい思いや意図をもち、旋律・テクスチャ・強弱・音色(声色)の働かせ方を試行錯誤し、曲にふさわしい表現を工夫している。

曲想や歌詞, 声部の役割との関わりを考え, 表現を工夫しよう

曲名「花がほほえむ」

宮下奈都作詞/三宅悠太作曲

1. この曲の雰囲気はどう感じますか。

--

2. この曲には、どういう思いや願いが込められていると思いますか。

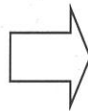
--

3. 2連と4連のはじめとおわりについて表現を深めましょう。

自分のパート()

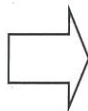
♪楽譜から読み取れること

♪作曲者の意図



♪歌詞から感じること

♪作詞者の意図



	どのように歌いたいか	そのために必要な技能
自分の考え		
パートの考え		

2年D組()番 名前()

4. 振り返り ①

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

5. 振り返り ②

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

やさしさって何

強いつてどういうこと

僕らは何度も試される

そのたびにつまずいて、転んで、膝を抱えて

間違わないように息をひそめて

後ろ足で砂を蹴る

伸ばした右手が空を切る

やさしくなりたい

強く生きたい

誰にもわかつてもらえなくても

あなたにだけはあなたがわかる

僕にも少しあなたがわかる

あなたがうずくまるのを

そして何度も立ち上がるのを見ていたから

間違つてもいい

正解はたぶんない

それでも探し続ける

やさしさって何

強いつてどういうこと

ありつたけの勇気を出して

世界中に散らばったやさしさと強さのかけらを

見つけにいく

ひとりひとりにそれぞれの答え

それぞれの道 光 誇り

どこかで交わつたらいいな

いつか僕の勇気に花がほえむように
あなたのやさしさに星が輝くように

2年D組()番 名前()

16

— 窓 — を 切 る —

切 る —

やさし くな

やさし くな

やさし くな

49

ありつ たけの 勇 一 気 を —

ありつ たけの 勇 一 気 を — 勇 一

こ と —

ありつ たけの 勇 一 気 を —

19

り た い つ よ く 生 き た い

り た い つ よ く つ よ く 生 き た い

り た い つ よ く 生 き た い だ れ

52

勇 一 気 を 出 し て

気 を 勇 気 を 出 し て

勇 一 気 を 出 し て

せ か いじゅうに 散らばった や

28

あ な た が わ か ー る

し す こ し わ か ー る あ な た が ー う ず く

あ な た が わ か ー る う ず く ま

61

こ た え そ れ ぞ れ の み ち ひ か り ほ こ り

こ た え そ れ ぞ れ の そ れ ぞ れ の

こ た え み ち ひ か り ほ こ り

31

ま る の を — そ し て な ん ど も 一 立 ち 上 が る の を 見 て い た か

る の を な ん ど も 一 立 ち 上 が る の を 見 て い た か

64

ど こ か で ま じ わ っ た ら い い な —

ど こ か で ま じ わ っ た ら い い な い い な

ど こ か で ま じ わ っ た ら い い な —

いつ か ほ く の 勇

35

ら

ら

2年D組()番 名前()

A 評価

4. 振り返り ①

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

「やさしい」と「強い」、「勇気」という言葉がそれぞれ相手に伝わるように、「やさしい」は包みこむように歌い、「強い」「勇気」は前のめりに少しくなって明るさや元気がわかるように歌いました。しかしまだ表情豊かにはできていなかったのも、次は語感と一緒に表情も大切にしていくようにしたいです。また、表現を深めるには自分のパート以外にも聞くことが大切だと知ったので、次回はその意識をしたいと思います。

4. 振り返り ①

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

「1連と5連は歌詞が似ているけど、1連よりも5連の方が雰囲気」が明るく、軽やかになっていると感じました。

でもけっして弱いわけではないので、最初の言葉（めぐる風）（すばらしい）などの発音をはっきりさせて、力強く歌いました。

これからも記号や雰囲気に気をつけて歌いにいきます。

試行錯誤し、音色（優しく包み込むような声、力強い声）まで考えた表現をしている。

B 評価

4. 振り返り ①

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

詩の言葉の中で大切だと感じるものを強く歌った。

自分で強く歌うと決めて意識しながら歌うと、強弱がはきりした。

強く歌うときはおなかに意識すると良くなった。

「ほきたい」という願望と、「勇気」という3回も連続で歌詞に出てくることは強く歌った。

4. 振り返り ①

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

・自分では強弱をもっと意識して、2連と4連の差をつけたかったけど、他の人から聴くと、ほとんど同じ調子で歌っていたことが分かりました。次回はさらに強調し、他の人が聴いても、差が分かるようにしたいです。

(工夫したこと) 強弱

試行錯誤しているが、強弱までの表現に留まっている。

単元プランシート(音楽科 1 年)

実施時期 11月

題材名	歌詞の情景や曲想を感じ取り, 表情豊かに歌おう	
題材の目標	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え, どのように歌うか表現方法を試行錯誤する活動を通して, 創意工夫して歌うことができる。	
評価 規 準	知・技	① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ② 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声, 言葉の発音, の技能を身に付け, 歌唱で表している。
	思・判・表	① 旋律, 強弱, 速度を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うかについて思いや意図をもって表している。
	主体	①歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	○詩を朗読し, 詩の情景を味わう。 ・どのように歌いたいのか各自で考える。 ・表現を深めるために必要な要素を考え, グループで共有する。	①	① ワークシート	①
2	○発表会に向けてグループで工夫することを確認し, 互いに聴き合い, 練習する。 ・他のグループの演奏から, 良かった点や改善点を聴き取る。	②		① ワークシート

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
歌詞の内容や曲想を感じ取るとともに, 表したい思いや意図をもち, 旋律・強弱・速度の働かせ方を試行錯誤し, 表現を工夫している。	歌詞の内容や曲想を味わうとともに, 表したい思いや意図をもち, 旋律・強弱・速度・音色(声色)の働かせ方を試行錯誤し, 表現を工夫している。

A 評価

2. 表現を深めるため、他に必要なことは何だろう。

【自分の考え】

声の強弱を意識することによって、表現を深められると思う。
手前、特に「赤とんぼ」は1番大きい音がmfなので、深みのある声で歌う。
【班の考え】
→ 大きすぎない！
f=117g

息のコントロールを！

発音と強弱を意識しながら歌う

強弱に加え、声色についての工夫も見られる。

2. 表現を深めるため、他に必要なことは何だろう。

【自分の考え】

曲にふんをのける（そうすると、感じのよい人になる）

【班の考え】

く、喉めがたのです。少ししか上げない（変化をなくして、同じように、同じように、同じように）

思いをくみ

強弱をきく

強弱に加え、音色（余韻）についての工夫も見られる。

B 評価

2. 表現を深めるため、他に必要なことは何だろう。

【自分の考え】

強弱だけでなく、速さなどを工夫するべきだと思う。
（中、速く、ゆっくり）

【班の考え】

ふたりのさへきさ、ゆっくり

よくいう歌

強弱、速度の工夫が見られる。

2. 表現を深めるため、他に必要なことは何だろう。

【自分の考え】

音程の上、下、バリのどきどきに、気持ち乗せる
弱めに歌う？「目やろしか」のところは静かであげて歌う。

【班の考え】

発音、作曲者、作詞者の想いを読み取る

音の強弱

クレッシェント、デクレッシェントも意識する

旋律、強弱の工夫が見られる。